

開倫塾で「学力」を向上させ「希望校合格」を果たすために
—自己学習能力の育成を目指して—

開倫塾
塾長 林 明夫

はじめに

開倫塾の保護者の皆様。本日はお忙しい中、開倫塾保護者会に御参加賜りまして、誠に有り難うございます。心から感謝申し上げます。

申し遅れましたが、私は開倫塾全体の代表である塾長の林明夫でございます。このような形で失礼とは存じますが、塾長としてのお話を保護者の皆様にさせて頂き、お子様が開倫塾で学習する参考にして頂きたく存じます。よろしく願い申し上げます。

お読みになりやすいように、QandAの形でお話を進めさせて頂きますことをお許し下さい。

〈開倫塾で身に付けてもらいたいこととは〉

Q：開倫塾で塾生の皆様に身に付けてもらいたいこととは何だと、塾長としてお考えですか。

A：(林明夫：以下省略) 2つあります。

まず第1は、学校での学業成績を上げるための「学力」です。学校での定期試験(中間試験や期末試験、前期試験や後期試験、学年末試験など年に4～5回行われるもの)で満点を取り、学校の成績を向上させる「学力」を、開倫塾で身に付けて頂きたく希望します。

第2は、進学を希望する上級学校に合格できる力、つまり「合格力」です。開倫塾では、塾生が進学を希望する学校を一人ひとりの塾生にとっての「一流校」と呼んでいます。塾生一人ひとりにとっての一流校に合格できるだけの力、つまり「合格力」を開倫塾で身に付けて頂きたく希望します。

〈自己学習能力とは〉

Q：学校の成績を上げ、希望校合格を果たすためにはどうしたらよいと、塾長としてお考えですか。

A：開倫塾に在籍し、学習している間に、「自己学習能力」を身に付けてもらいたいと希望します。

Q：「自己学習能力」とは何ですか。詳しく説明して下さい。

A：はい。

(1)「自己学習能力」とは、「自分の力で学習する能力」、つまり「一人で勉強する力」のことです。小学校から中学校、中学校から高校、高校から大学と、勉強する学校が上級になるほど、自分一人で机に向かいひたすら勉強することが求められます。塾生の皆様のペースや個性に合わせて、無理のない範囲で少しずつでよいですから、「自分一人の力で机に向かいコツコツと勉強する力」を身に付けることが大切です。

(2)ところで、この「自分一人の力」で勉強する力という意味での「自己学習能力」は、小学生、中学生、高校生だけに必要というのではなく、大学生や大学院生、社会人など年齢が上になればなるほど必要が高まるとも言えます。開倫塾の塾生の皆様の多くは、大学・短期大学・専門学校・専修学校などの上級学校で勉強しています。(大学に進学するために予備校で勉強する方を含めて日本平均で85%近くの方が、高校卒業後に何らかの学校で勉強しているのが日本の現状です)。大学などの、高校卒業生が学ぶ教育のことを「高等教育」と呼ぶことがありますが、大学など「高等教育」の前提条件は「自己学習能力」であると考えられています。

つまり、大学の教育や研究は、自分一人で勉強することができる力を持っていることを前提に行われますから、大学に入学する前に自己学習能力を身に付けて下さいということです。

開倫塾で、小学生、中学生、高校生に、少しずつでもよいから自分一人で勉強する力を身に付けてもらいたいと、1979年つまり28年前の創業時からお願いし続けているのは、定期テストでよい点を取り、学校の成績をよくして、自信を持って学校生活を送ってもらいたい、希望する上級学校への合格を果たし、選択肢のたくさんある人生を歩んでもらいたいとの願いだけではなく、大学等の高等教育機関での教育や研究に耐えられる力(自己学習能力)を身に付けてもらいたいとの願いからです。

御参考

小学校での教育を「初等教育」、中学校・高校での教育を「中等教育」(中学校での教育を「前期中等教育」、高校での教育を「後期中等教育」と分けていうこともあります)ということがあります。

(3) 自分一人で勉強する能力という意味での「自己学習能力」は、社会に出て仕事をするときや、家族生活、地域での活動にも欠かせません。取得しなければ仕事や生活が成り立たない自動車の運転免許証はじめ必要な資格は山ほどあります。その際には、自分一人でコツコツと勉強しなければなりません。また、解決しなければならない問題や一人で勉強しなければならない事柄も、社会に出ればどんどん目の前に出てきます。ですから、「自己学習能力」は人間として生きている間必要不可欠とさえ私は考えます。

(4) 塾長としての私の希望は、開倫塾の塾生である間に、一生涯役に立つ「自己学習能力」を無理のない範囲で少しでも身に付けて頂きたいということです。今、企業の社会的責任(CSR)がさかんに議論されております。開倫塾の「企業としての社会的使命(mission、ミッション)」は「成功の実現に貢献すること」であります。塾生の皆様が「自己学習能力」を身に付けることが、「塾生の成功の実現に貢献」することに通じると考えます。そして、それが開倫塾の「企業としての社会的使命(mission、ミッション)」を果たすことに直結すると考え、「自己学習能力の育成」を教育目標に掲げさせて頂いております。

<学習の3段階理論とは>

Q：ではお聞きしますが、どのようにして、自分一人で勉強する力、つまり「自己学習能力」を身に付けたらよいのですか。

A：開倫塾には、「学習」を3段階に分けて一つ一つの段階ごとに確実に学習を進めていくことを目指した開倫塾独自の「学習の3段階理論」があります。この「学習の3段階理論」は、自分一人で勉強する力を身に付けるときに役立つと考えますので、「自己学習能力」の具体的内容の1つとして実行してみることをお勧めします。

Q：開倫塾独自の「学習の3段階理論」とは何ですか。

A：以前から開倫塾で学んでいらっしゃる塾生の皆様や保護者の皆様には、既に何十回も何百回もお話させて頂いた内容なので重なることも多いと思いますが、最近開倫塾に御入塾なさった方もいらっしゃると思いますので、恐縮とは存じますがもう一度御説明させて頂きます。

御参考 開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)林明夫のコーナーに、「開倫塾ニュース」の今までの分がまとめて掲載してあります。同じような内容で恐縮ですが、開倫塾独自の「学習の3段階理論」についての説明を何回も書かせて頂きましたので、この文章を合わせて御高覧下さいますようお願い申し上げます。

〈理解とは〉

Q : 「理解」とは何ですか。

A : 開倫塾独自の「学習の3段階理論」では、学習を「理解」「定着」「応用」と3つの段階に分けます。

- (1) 「理解」とは、今学習していることが「うんなるほど」と「よくわかること」、「納得すること」、「腑(ふ)に落ちること」をいいます。この「うんなるほど、よくわかった」「そうか、これはこういうことだったのか、そうかそうか」と「納得する」、「腑に落ちる」ような状態になることを、「理解」といいます。
- (2) この「理解」は一体どのようなところ(場所)ですのかといえ、散歩をしながら、お風呂の中で、座禅や瞑(めい)想をしながら、旅行中になどといろいろな場合が考えられます。ただ学校で勉強する教科について限って言えば、この「理解」は、「学校の授業中」や「自分で教科書などの教材を勉強するとき」が多いと考えられます。そこで、ここでは「学校や開倫塾の授業中」と「自分で学校の教科書や副教材、開倫塾の教材を自習する場合」にどのようにしたら「理解」が進むかを考えてみます。

〈授業の受け方〉

Q : 学校や開倫塾の授業は、どのような態度で臨めば「理解」が進みますか。学校や開倫塾で学習する新しい学習内容が「うんなるほど、よくわかった」と言えるには、どうしたらよいですか。

A : 簡単なこと、あたりまえのことからお話させていただきます。

- (1) 授業中は、手を机の上に置き、先生の目を見ながらしっかり先生の話をお聴きすることです。先生の言った通りに、作業をしたり、友だちとディスカッションしたりすること。問題が与えられたらそれについて考え、考えがまとまったら答えること。先生の目を見て、学校でも開倫塾でも真剣勝負で先生の授業を聴くこと。これが、「理解」では大切と考えます。
- (2) 「理解」を妨げる行為は行わないことです。
 - ① 授業中の「おしゃべり(私語)」は理解を妨げますので、絶対禁止です。「おしゃべり(私語)」がなぜいけないかというと、本人と話かけられた人、周囲の人の「理解」の妨げ(妨害)となる行為だからです。「おしゃべり(私語)」をされていたのでは、どんなに先生が周到な準備をして熱心に授業をしても、「うんなるほど」と「納得」することはできません。
 - (ア) おしゃべりをするのは、先生の授業が上手でない、下手(へた)だからということがあるかも知れません。開倫塾の先生方は、授業の準備を万全にして、また周到に毎回のレッスンプラン(授業計画)を練り上げてから授業に臨んでいます。模擬授業も含め数多い研修会も実施し、教え方が下手な先生は存在しないと考えていますので、とりあえず、おしゃべり(私語)は一切しないで、開倫塾の先生の授業を真剣に聴いてみて下さい。必ず、「うんなるほど」と「理解」できる状態が生まれると確信いたします。
 - (イ) おしゃべりを一切しないで、静かに、また真剣に先生の話をお聴いても「うんなるほど」と「理解」できない場合は、授業終了後に先生に相談してみてください。もう一度さらに丁寧にゆっくり説明してもらおうと、「理解」できる場合がほとんどだと思います。
 - (ウ) それでも「理解」できないのは、学習は積み重ねですので、それまでの学習内容が身に付いていないことが考えられます。そんなときには、どこまでわかっていないのかを先生が推定して、「遡及(そきゅう)学習」をいたします。わからないところまで遡って学習し直すことも大事だからです。病気の治療と同じに考えて、あせらないでよくわかっているところからもう一度勉強し直しましょう。

御参考 新しいあることを「理解」するには、それまでに習ったことを完全に身に付けておくとういと思われま。例えば、今日、70 ページから勉強するという事ならば、1 ページから 69 ページまでの内容をできるだけ正確に身に付けておくとういことです。

- ・ この例でいえば、授業の前に1 ページから 69 ページまでを復習するという「習慣」を身に付けることを、皆様にお勧めします。

・このことは社会に出てからも役に立ちます。例えば、1つの会合に出るときには、それまでの会合の資料に事前に必ず目を通しておくこと。今までに何が議論されたか、どこまで議論されたかを十分ふまえた上で、その日の会合に臨むこと。そのようにする人が増えてはじめて、思いつきの発言が少なくなり、質の高い議論ができ、その会合の進歩、ひいては「社会の進歩」に繋(つな)がります。

②「欠席」、「遅刻」、「早退」、「居眠り」、「忘れ物」、「授業中に携帯電話をすること」、「授業以外のことを考えること」なども、「理解」を妨げる行為と考えられます。

(ア)そもそも先生がお話をするときに、その場に存在しない「欠席」、「遅刻」、「早退」があつては、「理解」どころではありません。どんなことがあつても、授業時間中は存在すること、着席する「努力」が大切です。

(イ)授業には出ていても教科書や副教材やノート、文房具などを忘れたのでは、先生の説明やノート取りの作業などが進みませんので、「理解」が著しく妨げられます。

お願い 御家庭で保護者の皆様がお子様教育的な指導をなさるに際し、なぜ「おしゃべり(私語)」「欠席」、「遅刻」、「早退」、「居眠り」、「忘れ物」、「授業中の携帯電話」、「授業以外のことを考えること」がよくないのかを御説明するにあたって、「うんなるほど」という意味での「理解」の妨げになるから避けた方がよいということを根拠(理由)の1つとしてつけ加えていただければ幸いです。

*開倫塾では、上記の行為は「理解」の妨げになるので絶対禁止の方針を塾生の皆様に伝え続けております。

〈ノートの取り方〉

(3)先生のお話の中で必要なことは積極的にメモを取り続ける、つまりノートを取り続けることが「理解」のためには大事です。

①黒板やホワイトボードに先生が書かれた内容はもちろん、教科書や副教材に書かれていない内容は一語一句すべてメモをすること、つまりノートを取り続けることが、成績向上の秘訣ともいえます。

②ノートの取り方に「きまり」はありません。ノートは人に見せるためのものではありませんので、「あとで自分で読み直してわかればよい」というのも1つの考えです。

先生がお話したことや黒板・ホワイトボードに書かれたことをすべて覚えていることは困難なため、とりあえずノートに記録しておく。ノートは「理解」すべきことで必要なことを記録しておくために取るのだと考え、学校や開倫塾の先生が授業中に述べたことや書いたことで必要と思われることはすべてノートに取ることをお勧めします。

③大切なことは、授業終了後のノートの取り扱いです。ノートに書いた内容と、学校の教科書や副教材、開倫塾のテキストなどを突き合わせ、ノートを整理することが大切です。

・項目立てをしたり、必要事項を書き加えたりしながら、「うんなるほど」「ああ、このことはこのような意味だったのか」と「納得すること」「腑に落ちること」、つまりノートを整理しながら「理解」することが大切なのです。

④(ア)この「授業中のノートの取り方」「授業後の整理の仕方」「ノートを整理しながら、うんなるほどと理解を進める方法」は、「中学校の高学年」「高校」「大学」「大学院」と、上級の学校に進むほど重要になります。

(イ)最も役に立つのが、就職をした後、新しい仕事を覚えるときや、難しい仕事に当たるときです。仕事の上では、すべての事柄についての教科書のようなものは、普通はありません。仕事は、上司や先輩、同僚、お客様、ビジネスパートナーの皆様から教えてもらいながら自分の力で身に付けることが普通です。そこで、何か大切なことがあったら忘れないうちにメモをし続けることが、仕事を身に付ける上で大切な方法となります。

(ウ)難しい内容の勉強や難しい仕事ほど、自分の力でノートを取り、自分の力でノートを整理することにより知識を整理し、自分の力で自分の考えをノートにまとめ上げるという「知的作業」をすることが求められます。

* 「ノート」の代わりに「コンピュータ」を使う方がどんどん増えています。「ノート」も「コンピュータ」も基本的な考え方は同じだと考えます。

* 21世紀が迎えた「知識社会」で求められるのは、自分の力で情報を集め、分析し、自分の力でその解決方法を探し出し、自分の力で解決するという能力です。その基本が、大切なことはメモをすること、取ったメモやノートを整理し「理解」に役立てることであると私は考えます。

〈予習は何のためにするのか〉

(4)「理解」を促進する上で大切なことの一つに、「予習」があります。

①「予習は何のためにするのか」と言えば、「予習をして、よくわからないところをはっきりさせて授業に臨むため」と言えます。「予習」は「よくわからないところをはっきりさせる」ためにする、つまり「問題意識を高く持って授業に臨むためにする」ものと私は考えます。

②授業は、先生と生徒の真剣勝負の場です。先生は、生徒にとってわかりにくいところを経験的に熟知しておりますので、わかりにくいところに焦点を絞ってわかりやすい説明をし、「理解」を促す。生徒は、予習により自分にとってわからないところをはっきりさせて、問題意識を高く持って授業に臨む。先生も生徒も真剣勝負。このような状態を、先生はもちろんのこと、授業を受ける側もつくる努力をすると、「学び合う場」としての最高レベルの「教室」ができ上がるものと私は考えます。

③予習の具体的なやり方は、以下の通りです。

(ア)教科書をゆっくり何回か音読(声を出して読む)する。

(イ)よくわからないところはどこかを、はっきりさせる。

(ウ)よくわからない原因が語句の意味にあれば、辞書や参考書を使って調べ、調べた内容はノートに記録しておく。

(エ)それでもわからないところをマークして授業に臨む。

(オ)もし時間的に余裕があれば、「学習の3段階理論」の第2ステージにあたる「定着のための作業」とする。これは、予習の段階で「うんなるほど」とよくわかった「理解」できた内容だけでもよいから、「音読練習」、「書き取り練習」、「問題練習」を繰り返す。「音読練習」で「何も見ないで正確に内容が言える」ようにする。「書き取り練習」で「何も見ないで言えるようになった内容が楷書で正確に書ける」までにする。「問題練習(計算練習)」で「よく内容のわかった問題は、問題を見た瞬間に正解できる」までにすることです。予習に遠慮は要りません。よく「理解」できた内容については、「定着のための作業」をどんどん進めてから学校や開倫塾の授業に臨むことを期待します。

④小学校よりは中学校、中学校よりは高校、高校よりは大学、大学よりは大学院と上級レベルの学校ほど、以上のような予習の方法が重要となってきます。さらに言えば、社会に出てからの勉強でも、大事なものは、正に予習そのものとも言えます。ありとあらゆる勉強を自分の力でした上で、わからないところだけ優れた人からの教えを受ける。これが社会人としての勉強かも知れません。

御参考 中世の学問的中心であった日本最古の学校「足利学校」には一時三千人もの学僧が学んだと言われていています。当時、足利学校では、日本の最高レベルの学問がなされ、遠くは九州から何十日もかけて、訪れる人もあったそうです。では、学僧たちは、どのくらいの期間、足利学校で学んだかと言えば、わからないところがわかったので一日で帰った人もいれば、農耕をしながら一生涯学び続けた人もいたそうです。いろいろな学び方があり、興味がつきませんが、一つのことを知るために何十日もかけて足利学校に来て、それを知ったら翌日は帰路につく。勉強とはそのようなものかも知れませんね。

<定着とは>

Q:「学習の3段階理論」の第1の「理解」はわかりました。では、第2の「定着」とは何ですか。

A:学校や開倫塾の授業で、一度「うんなるほど」とわかった、つまり「理解」した内容を身に付けけることを「定着」といいます。「定着」には、3つの内容があります。

- (1)「定着」の第1は、一度「理解」した内容を「何も見ないで正確にスラスラ言えること」です。
- (2)「定着」の第2は、「何も見ないで正確にスラスラ言える」ようになった内容を、「何も見ないで楷書(かいしょ)で書けること」です。
- (3)「定着」の第3は、学校の教科書や開倫塾のテキストにのっている問題の中で、学校や開倫塾の授業中に先生から教えてもらいその意味が十分「理解」できた、つまり、その問題についての解答がなぜそうなるのか「理解」できている問題や自分で一度解いてみてよく「理解」できている問題について、「問題を見た瞬間に条件反射で正解が出せるまでになっていること」です。

定着とは

- 授業で一度「理解」した内容について
- (1)何も見ないでスラスラ言えること
- (2)何も見ないで楷書で書けること
- (3)問題を見た瞬間に条件反射で正解が出せること

<定着のためには、「練習、練習、また練習」を>

Q:3つの「定着」のためには、どうしたらよいのですか。

A:学校や開倫塾の授業などで「うんなるほど」と「理解」できた直後から、「定着のための作業」つまり「練習、練習、また練習」をすることをお勧めします。

見た瞬間にすべて記憶してしまう人も世の中にはいると聞いたことはありますが、ほとんどの塾生の皆様は、「理解」はするが、しばらくすると大半は忘れてしまうことが多いようです。「記憶の痕跡」を脳の中に残し、運動と同じように体で覚えること、つまり「練習、練習、また練習」に励むことが、最も確実な「定着」のための方法といえます。

<練習の中身とは「音読練習」「書き取り練習」「問題(計算)練習」>

Q:では、どのような練習をすればよいのですか。

A:練習には、3つあります。

- (1)「音読練習」が第1です。一度「うんなるほど」と「理解」した内容をゆっくり大きな声で、何回も、何十回も、何百回も「音読練習」すること。塾生の皆様の多くは10代ですので、「音読練習」するだけで「何も見ないでスラスラ言える」ようになります。「音読練習」をして大体覚えたら、何も見ないで言うこと。何も見ないでスラスラ言えるようになった内容を再度「音読練習」すると、さらに知識は「定着」します。(文字が正確に読めることは大切な能力です。)

御参考 例えば、今日、学校で教科書を70ページから勉強するとしたら、1ページから69ページまで「音読」することをお勧めします。自分一人で新しいページを勉強するときも、今まで勉強したところを「音読」してから始めると、それまでのところが頭に入っていますから、新しい内容がスラスラ頭に入るようになります。「音読練習」は極めて大きな学習効果を生み出します。

- (2)「書き取り練習」が第2です。

①「音読練習」を繰り返すことにより、何も見ないでスラスラ正確に言えるようになった内容について、何も見ないで楷書で書けるようにするにはどうしたらよいか。それには、「書き取り練習」を繰り返すことが最も効果的です。「書いて、書いて、書きまくる」こと。家で不要になった紙を「書き取り練習用紙」として集めておくこと。全科目とも、「書き取り練習用紙」が「真っ黒」になるまで、「書き取り練習」を繰り返しましょう。

②テストでは正確に書けなければ得点できない場合も多く、また、書けなければ自分の意思・自分の考えが相手に通じないこともたくさんあります。文字を正確に書けないことで損害を被ったり、信頼を失う場合すらあります。どのような文字や語句も書き取り練習をしない限り、見ただけでは正確に書けるようにはなりません。(文字が正確に書けることは大切な能力です。)

大切な語句は書き取り練習をして正確に「定着」させることを、皆様の大切な「自己学習能力」の1つに入れることをお勧めします。

(3)「問題練習(計算練習)」が第3です。

①学校や開倫塾の授業などで「うんなるほど」と「理解」できた問題を、問題を見た瞬間に条件反射で正解できるようにするにはどうしたらよいか。

それには、「問題練習」を5～6回繰り返すことをお勧めします。同じ問題を5～6回やり直すことで、問題を見た瞬間に正解できるようになります。

②例えば、 $a + a + a = 3a$ 、 $a \times a \times a = a^3$ 、 $(a + b)(a - b) = a^2 - b^2$ のように、ほぼ公式そのもののような基礎的な大切な問題は、何回も、何十回も、何百回も口ずさむくらい繰り返し練習して下さい。

③各教科で、学校の教科書や開倫塾のテキストレベルの問題を見た瞬間に条件反射で正解できる科目が多くなればなるほど、テストのときにパツパツと正解できる問題が増えます。ありとあらゆるテストで時間的な「ゆとり」が生まれます。すると、「ゆとり」を持って、今まで出会ったことのない問題や難しい問題にチャレンジすることができます。(正しく計算ができることは大切な能力です。)

練習、練習、また練習

- ①音読練習
- ②書き取り練習
- ③問題練習(計算練習)

御参考

- ・2004年のOECD(経済協力開発機構)のPIISA(15歳学力到達度調査)で学力世界一になったフィンランドは、「練習、練習、また練習」で基礎学力を「定着」させた上で应用能力や考える力を養成した結果、世界一の学力の国になったと私は考えます。
- ・私は、2005年にフィンランドの文部省主催のヘルシンキ大学での「なぜフィンランドが世界一の学力の国になったか」をテーマした国際会議に参加して以来、フィンランドの成功の鍵を研究してきました。「練習、練習、また練習」で基礎学力の「定着」を図っていること、放課後の補習などで落ちこぼれをなくしていること。
- ・国中いたるところにある「街角図書館」などから借りた本を深く深く読み込んでいる子ども達が多いこと。
- ・高校は無学年制で、自分で選択した1つ1つの科目の履修を積み重ねながら3～5年かけて卒業することも、「考える」国民をつくる上で役立っているようです。義務教育には学力不足の生徒のための10年目があり、また、高校には単位が取れないと次に進めない制度があります。

Q:「練習、練習、また練習」で、学校の成績や偏差値は上がるのですか。

A:(1)「うんなるほど」と「理解」できたことについて、「練習、練習、また練習」で学力の「定着」を図れば、学校の定期テストでは100点に限りなく近い点数が取れると考えます。(応用問題を除いて)

(2)①高校入試でも、大学入試でも、「音読練習」で一度「うんなるほど」と「理解」した内容が「何も見ないでスラスラ正確に言える」ようになれば、「偏差値50」は取れます。

②「書き取り練習」で「何も見ないで正確に言えるようになった内容が楷書で書ける」ようになれば、「偏差値 55」は取れます。

③学校や開倫塾の授業で「うんなるほど」と「理解」した問題を5～6回解き直して、問題を見た瞬間に条件反射で正解が出せるようになれば、「偏差値 60」は取れます。

「練習、練習、また練習」とテストの成績

(1) 定期試験…限りなく 100 点が可能となります

(2) 入学試験

①「音読練習」の徹底で、偏差値 50 突破が可能となります

②「書き取り練習」の徹底で、偏差値 55 突破が可能となります

③「問題練習(計算練習)」の徹底で、偏差値 60 突破が可能となります

(3) 一度「うんなるほど」と「理解」した内容の「練習、練習、また練習」による「定着」は、「学校の定期試験」で限りなく 100 点を取らせ、入学試験での偏差値 60 までの上昇に直結します。

学校のテストでなかなか 100 点が取れない科目や、偏差値の 50、55、60 突破がなかなかできない科目は、是非徹底的な練習を行って、自らの力でよい結果を勝ち取って下さい。

Q : 「定着のための作業」である「練習、練習、また練習」を妨げるものは何ですか。

A : この「練習、練習、また練習」には時間がかかります。ある一定の時間を確保することが不可欠です。

長く時間がかかるものは少なめに。

(1) 長TV

(2) 長ファミコン

(3) 長風呂

(4) 長 e-mail

(5) 長ケンカ

(6) 長い時間悩むこと

・長く時間がかかるものは、「これは1日〇分にする」と短く行う努力が求められます。

・特に、(6)の「長い時間悩むこと」は「練習時間」の妨げになりますので、「悩む時間は1日30分」にすべきです。いくら悩んでも成績は上がらないことを、肝に銘ずることです。

<応用とは>

Q : 「学習の3段階理論」の3つ目の「応用」とは何ですか。

A : 「応用」には、2つあります。

(1) テストで合格点が取れること

(2) 社会に出て役に立てること

<テストで合格点を取るには>

Q : 「テスト」で合格点を取るためには、どうしたらよいですか。

A : (1) 「定期テスト」では、教科書の範囲内の出題であれば、よほどの応用問題を除いて、「練習、練習、また練習」でほぼ100点満点が取れます。

(2) 「入学試験」では、「練習、練習、また練習」で偏差値 60 までは取れます。問題は、偏差値 65 を突破して、70 にどう近づきそれを突破するかです。

5～15年分くらいの過去問を、毎週1年分くらいずつじっくり解いてみることをお勧めします。大学入試でしたら「センター試験」の問題を15年分と予備試験の問題を15年分の合計30回分を、試験1年～9か月くらい前から1回分を1週間かけてじっくり研究することです。

(3)「実用英語検定試験」も同様に、数年分の過去問を丁寧に解く練習を繰り返し、同じ問題を間違えないことに徹しましょう。

開倫塾では、1年英語を勉強した人は5級(小6から中1)、2年英語を勉強した人は4級(中1～中2)、3年英語を勉強した人は3級(中2～中3)、4年英語を勉強した人は準2級(中3～高1、高2)を取得し、高校3年生までに2級(高2～高3)を取得してから大学等に進学するよう勧めています。

*英検の勉強は、英語の勉強に非常に有益です。開倫塾の英検コースで習った内容を十分「理解」し、「うんなるほど」とよく「理解」した内容の「練習、練習、また練習」を徹底的に行いながら「定着」を図れば、単語力(語彙力といいます)も、文法力も、コミュニケーション力も飛躍的に身に付きます。

「応用力」を身に付けるためには、英検の過去問の勉強をし、問題集もテキスト代わりにして「練習、練習、また練習」で「定着」を図れば、入学試験の問題も楽に解けます。

—— 実用英語検定と入学試験 ——

- (1)英検3級に合格後、高校入試の過去問に真剣に取り組めば、高校入試の英語の問題は高得点が取れます。
- (2)英検2級に合格後、センター入試の過去問に真剣に取り組めば、200点満点中180点も夢ではありません。

Q：最後に、「社会に出て役に立てる」という意味での「応用力」を身に付けるには、どうしたらよいでしょうか。

A：(1)学校や開倫塾で使った教科書やテキストは、一生涯捨てないことです。特に、学校の教科書は一生の宝物として大切にしてください。

(2)学校時代に真剣に取ったノートも、一生涯捨てないで大切にしてください。

(3)開倫塾では、これらに加えて、「新聞を教育に(N I E、Newspaper In Education)」を役立てることをお勧めしています。

①小学生は20分、中学生は40分、高校生は1時間、新聞を毎日読み、世の中ではどのようなことが起こっているのかを考えることを奨励しています。気になる新聞記事は、保護者の皆様のお許しを得た上で、切り抜いて「新聞切り抜きノート(スクラップブック)」に貼り付けるよう勧めています。

②御家族がお読みになった昨日までの新聞を、お子様のN I E(新聞を教育に)のためにプレゼントして下さいようお願いします。

③「何のために勉強するのか」を自分の力で考え、自覚を持って勉強するには、今何が世の中で起こっているのか、これからの世の中はどうかを考えることが大切です。そのために、新聞を毎日深く読み考えることをお勧めしています。

④一部の校舎では、現役の新聞記者の皆様をお招きして、新聞ができるまでをお話頂き、新聞に親しむきっかけをつくってもらっています。

(4)開倫塾ではまた、幅広い「読書」を奨励しています。古典を含め幅広い分野の読書の習慣を身に付けることは、ものごとを自分の力で考える力を身に付けることにも直結します。本を読んで、気に入ったところは「書き抜き読書ノート」に書き写しましょう。自分で作り上げた「書き抜き読書ノート」を何回も、何十回も繰り返して読むことも奨励しています。

(5)開倫塾では、学校や開倫塾で学習して身に付けたことを、実際の社会で積極的に活用するようお勧めしています。

保護者の皆様も、学校や開倫塾で学習した知識を生活の中で生かすにはどうしたらよいかをお考え頂き、お子様に少しずつでも具体的にお示し頂ければ幸いです。

おわりに

- (1)長い文章をお読み頂き、有り難うございました。この文章は、開倫塾の保護者の皆様にお読み頂き、お子様の教育にお役立て頂きたいとの願いのもとに丸2日間をかけて執筆させて頂いたものです。
- (2)開倫塾は、1979年の秋に創業させて頂いて以来、皆様の御支援の下、お陰様で28年目を迎えます。これまでの経験を大切にして、6000名の塾生の皆様の「成功の実現」に幾分なりとも貢献させて頂きたく、「学習の3段階理論」を中心において毎日の教育サービスを提供させて頂いております。
- (3)毎月初旬に発行の「開倫塾ニュース」では、「自己学習能力の育成」に向けて「理解」、「定着」、「応用」の「学習の3段階理論」をどのように進めたらよいかを学年別に示させて頂いております。

各学年ごとの効果の上がる毎日の勉強方法の執筆はすべて開倫塾の先生ですので、じっくりお読み頂き、そのまま実行して頂ければ、必ず役に立つと確信いたします。

*今までの内容は、開倫塾のホームページでいつでも検索が可能です。どうか積極的に御活用下さい。

- (4)毎週土曜日の午前9:15～9:25には、C R Tラジオ栃木放送で「開倫塾の時間」を放送中です。本年3月で、21年目となった番組です。担当は私で、一人で話し続けております。「効果の上がる勉強方法とは何か」、「これからの世の中はどのように変わっていくのか」を中心に、少しでも参考になる内容をと願いながら、毎週月曜日の午前9時30分に足利市にあるC R Tのスタジオで録音したものをその週の土曜日に放送していますので、内容はかなり「ホット(最新)」なものとなっています。周波数は864khと1062kh、1530khの3つですので、栃木県のみならず群馬県東部、茨城県西部でも聴取可能です。ラジオを通して開倫塾の6000名の塾生と12000名の保護者の皆様のための放送を毎週行っているとの思いで、年間52回お話をし続けております。どうか、塾生の皆様だけでなく、保護者の皆様も是非お聴き下さいますようお願い申し上げます。
- (5)自宅で勉強することが困難な場合は、開倫塾の空いている教室を自習室として無料で開放しています。おしゃべり、携帯電話等一切禁止のルールを守る方のみ、先生の許可のもとでお使い頂けますので、ご利用下さい。

ただし、夜10時半以降は防犯上の理由で、一人の例外もなく全員、どんな場合でも帰宅して頂きます。

- (6)開倫塾の指導内容について御意見がおありの方は、クラス担当者、校長、本部事務所、塾長室 高尾、または総務部長 島田まで直接お電話下さい。私(林明夫)には、お便り(専用郵便番号 326-8505 開倫塾 林 明夫で届きます)かF A X (0284-73-1520)で御連絡下さい。どのような内容でも、どうか御遠慮なく御相談下さい。秘密は絶対厳守で不利益な扱いはいたしませんのでご安心下さい。
- (7)最後に一つだけお願いがあります。

開倫塾では、授業料等納入金以外どのような場合にもいかなる金品を頂くことはありません。クリスマスプレゼント、お歳暮、合格祝いの品、お中元等一切の品物や商品券、現金はお受けしませんので、予め御了承下さい。受け取った職員は、不正行為として開倫塾から厳重な処分を受けることとなりますので、よろしく御理解のほどお願い申し上げます。

感謝

◆略歴

塾長 林 明夫(はやしあきお)

- ・ 栃木県立足利高校卒業
- ・ 慶應義塾大学法学部法律学科卒業(1973年)
- ・ 卒業後30歳まで慶應義塾大学司法研究室研究生として法律の勉強
- ・ 1998年 世界銀行研究所と 1999年 ハーバード大学行政大学院国際開発研究所にて公共部門の民営化短期集中コース修了。

〈現在の役職〉

- ・ 宇都宮大学大学院工学研究科客員教授
- ・ マニー株式会社 社外取締役
- ・ 栃木県社会教育委員(栃木県教育委員会)
- ・ 学校制度に関する懇談会委員(宇都宮市教育委員会)
- ・ 群馬経済同友会 会員
- ・ 茨城県経営者協会 会員
- ・ 社団法人経済同友会(東京)幹事
- ・ 開倫ユネスコ協会 会長
- ・ 開倫研究所 所長